看護かごしま

Nursing Kagoshima

http://k-kango.jp

2017.Winter Vol.166

理事及び各委員長（12 月 17 日開催の事業検討会にて）

◆年頭のごあいさつ …… 2
◆ほっとニュース …… 4
ひまわり褒賞 2016
事業検討会
平成 28 年度日本看護協会地区別法人会連絡会（九州地区）
子どもと子育て世代包括ケア推進のためのモデル事業大隅地区会議
入会案内
◆管理者会報告 …… 6
◆ワークライフバランス活動報告 …… 7
◆ファーストレベル・セカンドレベル研修に参加して …… 8
◆めざせ認定看護師 …… 9
◆職場紹介 …… 10
◆地区だより …… 13
◆ナースセンターへの届出制度と復職支援をご利用ください！ …… 14
◆ナースセンターだより …… 17
◆追加公募 …… 20
◆理事会報告 …… 20

平成 28 年度鹿児島県看護協会会員数

保 健 師	440 人
助 産 師	378 人
看 護 師	10,201 人
准看護師	859 人
合　　計	11,878 人

平成 29 年 1 月 10 日現在
※昨年度会員数より 142 人増

年頭のごあいさつ

公益社団法人
鹿児島県看護協会会長　田畑　千穂子

謹賀新年
新しい年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。
日頃から本会に対し多大なるご協力とご理解を賜り、心から感謝申し上げます。会長に就任してこの半年間、県内の各地で先進的な活動に触れてはエネルギーを頂き、戴帽式では看護学生の「ナイチンゲール誓詞」に心が洗われ、福祉関係の保育園の運動会では園児に寄り添う若き学生ボランティアに未来を感じるなど、多くの出逢いに感謝しております。今年も、会員の皆様とともに看護の風景を紡いでいければ幸いです。

今年度は、本県の地域医療構想に基づき各医療圏別に地域包括ケアシステムの構築に向け、訪問診療や訪問看護等の充実や医療機能を内包した施設系サービス等の在宅医療提供体制の充実が課題となっております。本会も医師会や関係団体とともに日本看護協会の将来ビジョン「いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護」の実現に向け、子育て支援（日本版ネウボラ）、看護基礎教育制度の改革、看護師クリニカルラダーの普及と継続教育の拡充、訪問看護師の育成、人材確保対策等の課題に取り組んで参ります。

県民の皆様のニーズに応えられる職能団体としてさらに貢献したいと考えております。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

公益社団法人
鹿児島県看護協会副会長
下仮屋　道子

新年明けましておめでとうございます。本年が会員の皆様にとりまして、素晴らしい年になりますよう祈念しております。

少子高齢社会が進展し、保健・医療・福祉の人的資源と財源が限界を迎えている中で、生活・医療・介護ニーズは増大し、多様化・複雑化しています。

県民の皆様の生活と医療・介護を支える専門職として看護職への役割はますます拡大し、施設はもとより在宅・地域における幅広い分野での活躍が期待されます。

健康の維持･増進、疾病の予防から始まり、疾病･障がいを抱えながらの療養生活の継続、そして人生を全うするまで支えていくための諸々の課題への取組みや看護職がやりがいをもって働き続けられる環境改善等を目標に会員・役員の方々の協力を頂きながら会長を補佐し役割を果たしていきたいと思います。

本年もどうぞご指導・ご支援よろしくお願いいたします。

公益社団法人
鹿児島県看護協会副会長
中重　敬子

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

今年も会員の皆様のキャリア開発が進むすばらしい年になりますことをお祈り申し上げます。

昨年から副会長として、看護協会の事業を進めていく役割を頂きました。各種委員会に出席し感じることは、2030 年を見据えた 2025 年問題の対策を、看護協会は着実に進めているということです。各地区長からのボトムアップ、協会長からのトップダウンが機能し、第 7 次医療計画に対応する人材育成や看護ケアする人の確保を着々とすすめております。

今年は、次の診療報酬・介護報酬制度の同時改定を迎える年でもあります。さらに進む在宅医療は、院内外のあらゆる場所で実践能力の高いジェネラリスト、さらなる専門能力を発揮出来るスペシャリストが必要とされます。病院や施設の経営の困難さが強くなる中で、看護職員の底力が発揮される時代だと思います。皆様の声を大事にし、会長を支援し頑張ります。よろしくお願い致します。

年頭のごあいさつ

「看護職に期待すること」

鹿児島県保健福祉部長
古　薗　宏　明

新年あけましておめでとうございます。鹿児島県看護協会の皆様には、日頃から本県の保健・医療・福祉行政の推進に当たり、多大な御協力と御尽力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、急速に少子高齢化が進む中、医療保険制度の持続可能性を高めるためには、患者それぞれの状態にふさわしい良質かつ適切な医療を効果的に提供する体制を構築するとともに、在宅医療・介護の充実を図る必要があり、県では、地域の医療提供体制の将来のあるべき姿である地域医療構想を昨年１１月に策定しました。

地域医療構想の実現のためには、特に病床の機能の分化及び連携の推進，在宅医療を含む地域包括ケアシステムの構築，医療従事者の確保及び資質の向上に取り組む必要がありますが、在宅医療等に係る需要は、今後ますます増加が見込まれることから、医療依存度の高い在宅療養者を支えるため、高度かつ専門的な知識と技術を持ち、他職種を結ぶキーパーソンとなる質の高い看護職が求められております。

このような中、看護職については、「看護師等の人材確保の促進に関する法律」において、研修を受ける等自ら進んでその能力の開発及び向上を図ることが責務とされております。看護協会で実施される各種研修の受講や職場での現任教育の充実等により、さらなる継続的な自己研鑽に努めていただき、優れた判断力や技術を有する専門性の高い看護が提供されることを期待しております。

県におきましても、引き続き、看護職員の資質向上対策に取り組み、皆様方が看護職としての役割を最大限発揮できるよう支援してまいりたいと考えております。

本年も、皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、鹿児島県看護協会のますますの御発展と皆様方の御健勝・御多幸を心から祈念いたします。

「看護職に期待すること」

公益社団法人鹿児島県医師会
会長　池　田　琢　哉

あけましておめでとうございます。

親しい人と迎える新年は楽しいものです。皆さんも住みなれた我が家にいるときや、懐かしいふるさとを思うとき、気持ちがほっとして自然と笑みがこぼれてきませんか。

「地域包括ケアシステム」は、高齢者等に、できる限り、そうした住みなれた地域で、安心して穏やかに暮らしてもらうために、医療・介護・福祉が一体となって取り組む施策です。人々が地域で安心して暮らすためには、まず第一にその地域で医療を受けられることが必要です。また、活気あるまちには、お産ができ、子どもを育てられる環境があり、高齢者が尊厳をもって自立できる介護力の支援体制が整っていることが必要です。看護職の皆様の役割は、今後ますます重要になってきます。

しかし、県内では、看護職が慢性的に不足しており、毎年、新たに誕生する看護師さんも、その多くが県外に出てしまう状況にあり、地域医療はたいへん深刻な状況になっています。

人材不足を何とか解消したいとの思いで、鹿児島県医師会は、「はやぶさ」基金を創設しました。これは、地元に残って地域医療に貢献したいと頑張る研修医、助産・看護学生の生活を支援する基金です。おかげさまで、民間も含め多方面から浄財をいただき、昨年４月に初年度の助成を開始したところです。

９月には、助成対象者を激励する懇談の場を設け、皆さん一人ひとりと言葉を交わしました。鹿児島の地で頑張りたい、ふるさとの役に立ちたいという熱意に満ちた声を聞き、たいへん嬉しく、頼もしく感じました。

医療には、単に人を助けるだけではなく、患者さんの苦しみや悩みを真摯に受け止めて寄り添う人材が求められています。皆さんには、技術の向上はもとより、患者さんに信頼してもらえるような心の持ち主になってほしいと願っています。

超高齢社会を迎え、在宅医療の充実、多職種連携の推進が急がれています。「待ったなし」の状況で、看護職の皆様には、チーム医療のキーパーソンとしての活躍が期待されているのです。

将来に誇れる鹿児島の医療を守るために、皆様方と一緒に頑張ってまいりたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。

ほっとニュース

1 ひまわり褒賞 2016

母子保健や子育て支援に取り組む個人・団体を表彰する「ひまわり褒章 2016」（NPO 法人ひまわりの会）の授賞式が 10 月 31 日（月）に東京都内で行われました。日本看護協会から推薦された平川涼子さんが晴れの表彰を受けられました。

＊「ひまわり褒章」とは
出産・育児・母子保健の現場で顕著な活躍をされた方々や、当該分野における自治体の政策や企業・団体の積極的な取り組みを表彰し、全国の妊婦さん、子育てを行うお母さんや家族の皆様にお知らせすることを目的として行われています。

2 事業検討会

平成 28 年 12 月 17 日（土）、看護研修会館において表紙写真のとおり会長をはじめとした執行部、各地区長、職能委員長、常任委員会委員長、特別委員会委員長が参加し平成 28 年度事業の中間評価と平成 29 年度に向けての課題及び事業計画について検討会を開催しました。本年度の事業は、当初事業計画に新たに子どもと子育て世代包括ケア推進のためのモデル事業や訪問看護における人材活用試行事業等日本看護協会事業等も入りましたが、概ね計画どおり進んでおり、下半期についても計画どおり実施していくことを確認しました。また平成 29 年度の事業計画については各委員会や地区事業研修企画等の調整や情報交換等活発な意見交換がなされました。

今後、出された御意見を調整し平成 29 年度事業を計画していきます。

3 平成 28 年度日本看護協会地区別法人会・法人会連絡会（九州地区）

平成 28 年 10 月 20 日～ 21 日に熊本市で平成 28 年度日本看護協会地区別法人会・法人会連絡会が開催されました。法人会が始まる前の午後 1 時から約 30 分、熊本のユルキャラ「クマモン」が災害支援のお礼をしたいと会場に来てくれました。

法人会の主な協議事項は

1) 今後の看護職養成に関する本会方針について
2) 地域における看護政策力強化について
（基金への対応、地域医療構想への対応を含む）
3) 認定看護師教育及び特定行為研修の実施に関する検討について
4) 新「会員情報管理体制（ナースシップ）」移行に関する進捗報告　等

●法人会では特に 2017 年から 2019 年は日本看護協会実施の全 21 分野の認定看護師教育事業は休講とし認定看護師の追加教育で特定行為研修を実施する。2020 年度は特定認定看護師（仮称）教育課程をモデル的に開講したいとのことでした。今後の認定看護師と特定行為研修の在り方、研修開催場所等を注視する必要があります。

法人会連絡会では災害発生時の九州ブロックの各県協会の応援や連絡体制の確認と熊本県看護協会の熊本地震時の動きについての情報提供があり、本会の災害時の体制も関係委員会と連携し整備してまいりたいと思います。

4 子ども子育て世代包括ケア推進のためのモデル事業大隅地区会議

平成 28 年 12 月 3 日（土）に恒心会おぐら病院の研修ホールで同モデル事業大隅地区会議を本会役員、4 職能委員会、地区長と会場提供いただいた病院関係者の方々と一緒に 84 名が参加して開催しました。はじめに本協会長、前田鹿屋市医師会長の挨拶に始まり、保健師職能委員長から本事業を説明の後、「大隅地区における母子保健医療の現状と課題」をテーマに大隅地域振興局保健福祉環境部健康企画課　宮園君子技術補佐による講演、引き続き小児の在宅医療の現場から
①「小児中心の訪問看護1年を振り返って」を鹿屋訪問看護ステーションサテライト白水の久保麻美看護師、
②「社会的ハイリスク妊産婦のサポート体制」を県民健康プラザ鹿屋医療センターの柏木幸子副師長、
③「訪問看護ステーション見学研修の実際と今後の課題」を鹿児島市立病院ＮＩＣＵの田中友貴看護師、
④「小児の人工呼吸器装着事例の地域連携の実際」を鹿児島大学病院　安藤ちあき看護師からそれぞれ 4 人の立場から実践広告をしてもらいました。その後、錦江町の事例を活用し「保健師・助産師・看護師・多職種が連携して今できることは何か」を考える事例検討会（グループワーク）を行いました。大隅地区では母子保健の地域包括ケア体制が脆弱とのことでしたが、今回、事例発表していただいた方々は関係団体・職種と連携し医療依存の高い子どもや保護者への支援に取り組まれていました。参加者の方々は真剣にかつ活発な意見交換されていました。そして事例提供のあった町においても資源の少ないところで今後子供の成長発達に伴った支援も出てくることから、この会議を契機として、行政・訪問看護ステーション・医療機関・学校等がさらに連携し、どこに住んでいても安心して生活ができるように、本協会としてもこの会議が更に広がっていくよう推進してまいります。

5 平成 29 年度 まだまだ 入会受付中です

平成 29 年より入会手続きが今までと変更になり、皆様にもお手数をおかけしております。今回は、皆さまから寄せられたご質問の中で多かったものを 3 つ掲載させていただきます。

Q１　申込書の送付先は？　⇒　平成 29 年度より私書箱（事務委託会社）への送付となります

【送付先】私書箱　㊦206-8790
日本郵便株式会社　多摩郵便局　私書箱第 21 号
公益社団法人日本看護協会・都道府県看護協会　会員登録事務局　宛

Q２　追加で送る場合は？
⇒　上記送付先へ　おひとり分ずつグレーの返信用封筒に入れて、
送付状を付けてお送りください。
※1 通のみ送られる場合は、送付状は必ずしも必要ではございません。

Q３　平成 29 年度の申込書を送った後で、異動になったら？
⇒　☆今まで通り会員異動・変更届を鹿児島県看護協会へご提出していただく
☆ご自分でキャリナース（マイページ）から変更していただく
どちらかの方法で、ご対応をお願いします。

お　願　い

平成 28 年 10 月より、会員情報管理体制が新しい体制となり、会員情報のすべての漢字は外字が廃止になり、JIS 漢字コードの第 2 水準までの文字での登録に変りました。インターネット入会を可能にするなどシステム的な対応の為、このような措置となりますので、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

【よく使用される文字】

外字		代替文字	外字		代替文字
﨑	→	崎	髙	→	高
濵	→	濱	德	→	徳

外字 が 代替文字 に変換されます。

ご不明な点や用紙の不足などございましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。
☎099-256-8081　鹿児島県看護協会　会員管理担当　まで

かごしま看護管理研究会について

社会医療法人青雲会青雲会病院　副院長兼看護部長
かごしま看護管理研究会　会長　今村　由美子

本会は、平成１６年２月に「いきいきフレンドリー会」という名称で数名の看護管理者で発足されました。

現在は、「かごしま看護管理研究会」という名称で、医療機関、介護老人保健施設、看護学校等３５施設の看護管理職者で運営されています。

目的～各施設の看護管理職者の任にあるものが看護管理における課題について研究や交流を通して研鑽し、会員のマネジメント能力を高める事を目的としています。

運営～２ヶ月に１回、各施設を持ち回りで開催しています。

内容～人材育成、人事考課についての各施設の取り組み、診療報酬改定セミナー、病院経営、施設見学等です。

管理職者は、様々な課題を抱えている中、この会で学ぶ情報は大変参考になり、２ヶ月に１回の開催ではありますが充実しています。

今後も、看護管理職者の質向上を更に推進してまいりたいと思います。

慢性期施設看護管理者会の紹介

医療法人猪鹿倉会　パールランド病院　看護部長
慢性期施設看護管理者会　　会長　吉松　昌代

慢性期施設看護管理者会は施設単独では看護教育に限界があるという共通の課題をもっていた鹿児島市内の看護管理者の会で 2010 年に発足しました。当時なかむら内科病院の看護部長であった中村育美氏の呼びかけがきっかけでした。最多で 12 施設が加入し、各施設の看護部職員を対象に勉強会を開催、勉強会の内容は役員会にて、年度の計画を立案、職種別や経験年数別と全職員向けなど多岐多様、全体研修は外部講師を招いての勉強会で講義形式を主とし、参加者の制限はない形を取り多職種の学びの場としています。また年に１度は、各病院での取り組みについて発表会形式で報告会を実施、写真はその際のものです。アドバイザーとして元看護協会長の平川様に協力を頂き、発表者へのコメントを頂いくなどして和やかな雰囲気の中で意見交換の場となっています。

現在の課題は、鹿児島市内の慢性期療養型病棟を有す施設への参加の呼びかけです。微力ながら中村前会長から引き継いだこの任ですが、継続は力なりでこれからも地道にこの会の活動が続けていけるよう精進していきたいと考えています。

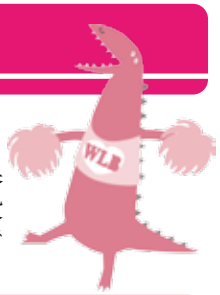
枕崎市内看護管理者会「極の会」

枕崎市立病院　総看護師長　中村　育美

鹿児島市内の慢性期施設看護管理者会にて、心強い仲間を作り、協力し合えた経験から、枕崎市内においても看護管理者間の交流を目的に、昨年 11 月に前平川協会長をお招きし、研修会を開催しました。看護管理に関する情報交換やマネジメント研修を行いながら看護管理を極めようと、会を「極の会」と命名し隔月開催しています。10 月には田畑会長にお越し頂き、協会活動のトピックスを伺いました。極の会活動は、まだ十分とは言えませんが、皆さんの理解と協力のもと、継続できています。今後も連携強化と、看護管理者同士が協力し合いながら、全員でその力を極めたいと思っています。新たに市外から１施設が加わり、会の充実を期待しているところです。

「極の会」参加施設
医療法人厚生会　小原病院
医療法人厚生会　立神リハビリテーション温泉病院
社会医療法人聖医会サザンリージョン病院
医療法人二三和会　尾辻病院
社会医療法人慈生会ウェルフェア九州病院
医療法人敬生会　久木田整形外科病院
南さつま市立　坊津病院
枕崎市立病院

WLB 推進ワークショップ報告会を開催



平成 24 年度から協会が開催してきた“WLB 推進ワークショップ”は、昨年度で募集終了となり、現在 7 施設が残り 1 ～ 2 年の期間を目標に、継続して WLB 推進に取り組んでいます。

本年度は平成 26 年度からワークショップに参加した 3 施設が終了報告を、また 27 年度から参加の 4 施設が中間報告を行ないました。報告会には 33 の施設から 108 名の参加があり、各施設の斬新な取り組みに WLB 推進の示唆を得ました。ナースセンター事業でも、WLB に取り組んでいる施設は求職者に選ばれやすい傾向にあり、各施設の取り組みを今後に期待したいところです。

楽しかった WLB 推進の取り組み

鹿児島生協病院　総看護師長　薄窪　和江

私たちは、3 年後のゴールを「チーム医療の充実で患者さんも満足・私も満足」とし、その達成に向けて多職種参加カンファレンスやランチョンセミナーなどを立ち上げ、カンファレンスを通して顔の見える関係づくりができました。また、看護に専念でき働きやすい環境づくりと「看護ケア」にこだわった教育と実践に力を注ぎ、私たちのめざす「その人らしく生きることを支援する看護」を意識できるようになってきていると感じます。3 年間の取り組みは、チーム医療の大切さを再確認できたと同時に、看護への自信につながりました。引き続き、看護にこだわっていきます。

WLB 推進事業に参加して

玉水会病院　看護部長　今吉和子

WLB 活動には、仕事と家庭を上手に両立し楽しく仕事ができれば…と思い参加しました。もともと子育て支援に積極的であった当院では、独身や若い Ns の「有休が言い出しにくい」感があったので、誕生日と公休を含め４ ,５日の連休を計画的に組み込むことにしました。

また、「努力している職員を仲間が認め・ほめる習慣」で病院や仲間を誇りに思える職場風土を作っていきたいと「Good job 賞」を導入しました。３か月に１回集計選考、毎回２０～２５件の投稿があります。

私たちの特徴は、ほめた人へも「Good サポート賞」をあげていることとプレゼンターは前回賞をもらった人にお願いしていることです。これらのことで、部署部門を越えて、小さなことにも目を向け、病院全体の活動になりつつあります。

全職員アンケートでも「WLB 推進の効果に期待」との結果に勇気をもらい、今後も地道に活動を継続していきたいと考えています。

WLB 推進事業の中で学んだこと

医療法人　青仁会　池田病院　看護部長　堂地　由紀

WLB 推進事業に参加して当施設は社員旅行やリフレッシュ休暇を導入し職場活性化を図ってきました。しかし、平成２５年度に受けた外部機関による組織分析の結果「不活性組織」と診断されました。そこで、日本看護協会が行っているＷＬＢ事業を知り、参加する事を決めました。超過勤務やケアに費やす時間が確保できていないことを課題とし、超過勤務の適正化、組織や看護の素晴らしさを振り返るコミュニケーション・モデル（Ｈｉｔ-Ｂｉｔ）等を取り入れ３年間活動した結果、スタッフは忙しいのが不満なのではなく、「やりがい」を求めているのだということを知りました。今回事業に参加したことで、満足度を高めるためには如何に自己実現の欲求を満たすかを考えることが大事であることに気づくと同時に、自身の看護を振り返る良い機会になったのではないかと考えます。

平成 28 年度ファーストレベル研修を修了して

医療法人愛誠会　昭南病院　森　隆徳

私は、日々の業務の中で人材育成はどう取り組むのかなど疑問・課題を抱えておりました。これらの疑問・課題を抱える中で今年度より看護副主任を拝命し、自分はスタッフのために何をすべきかと考えていたときに、看護部長よりファーストレベル研修のお話をいただきました。これまでも教育に関する研修会など多くの機会を与えていただきましたが、ファーストレベル研修に参加することで新たな視点や気づきを得られるのではないかと思い、参加させていただくことになりました。いざ参加してみると師長職の方も非常に多く、「自分がやっていけるのだろうか」と不安を抱きながら研修初日を迎えました。今考えると、その時の不安はどこに置いてきてしまったのだろうかと思うくらい楽しく、研修最終日は寂しさを感じながら迎えたことを思い出します。

研修では、「看護管理者とはなにか」「看護管理者に必要なこととは」など看護管理者としての基礎を学びながら、「自分はどう考えるのか」「その考えをどう浸透させ、実践するのか」と日々、自分の思いを概念化することを続けてきました。これは非常に難しく感じるかもしれませんが、これができるか否かで今後看護管理者としてスタッフ、組織にどれだけ貢献できるかが変わってくるのだと思います。そして、組織力を向上させるためには人材育成が核となるのだとあらためて学ぶことができました。

これらの 28 日間の学びを活かすかどうかは自分次第です。学びを実践し継続することの難しさは誰もが感じていることではありますが、ファーストレベル研修で出会った多くの仲間たちと共に、この課題を乗り越えて行こうと思います。研修に携わっていただいた鹿児島県看護協会および講師の方々をはじめ、研修に送り出してくれた病院長・看護部長・職員の皆様に感謝しております。この素晴らしいファーストレベル研修に多くの方が参加することを願っております。

平成 28 年度セカンドレベル研修を修了して

鹿児島市立病院　　津　ひろみ

セカンドレベル研修は､真夏の厳しさが残る 9 月 2 日に始まり、秋の気配を感じる 11 月 11 日に 195 時間の研修を終了しました。凝縮された研修時間は、振り返ると短かったように感じます。

研修は、受講生 27 名が成人学習者として、講師・受講生同志との関わりの中で主体的に学ぶ姿勢を育み学習を展開するように、講義と演習をミックスした構成でした。

部署の管理者として、講義では理論・概念を学び、演習では学んだことを具体化、言語化することを繰り返しました。私のめざす組織・看護は何か、組織における自分の役割は何か、自部署の問題は何か、どのように解決し評価するか、考える日々でした。演習で問題解決の方向性に気づいたり、モヤモヤが強くなったり、揺れる毎日でしたが、管理者として自部署の現状を深く見つめる貴重な時間でした。

すべての講義で、人材は人財であり、人なくして組織・経営は考えられないこと、人材育成・活用が重要であり、ビジョンに向けた組織化が役割であると述べられました。私たち管理者は、求められている質の高い看護サービスを提供できる人材を育成することです。限られた人材で成果をだすというミッションを強く感じました。

2025 年問題に対して、国策や県の医療計画など取り巻く環境の変革が始まり、私たちも意識と行動の改革が求められます。アンテナを伸ばし、主体的に新しい知識や情報を取得し、リーダーシップを発揮することが大切になります。自己研鑽を重ね、研修で学んだことを実践し、来年度のフォローアップ研修発表を目指したいと思います。

最後に、お忙しい中講義をして頂いた各分野の講師の先生方、研修中常に私たちを気遣い支援していただいた看護協会関係者の皆様、そして研修に参加させて下さった自施設の皆様に深く感謝いたします。

公益財団法人慈愛会　東　美奈

私は、看護管理者として現場で起きている課題に対し、効果的に解決へと取り組めていないと感じていたため、問題解決能力をつけたいという思いで研修に望んだ。

セカンドレベル研修は、午前中に講義を受け、午後からはグループワークが多かったこともあり、日々の実践について理論と結びつけて考えさせられることで自分の課題を明確にすることができた。演習では、看護管理者としての想いや失敗した経験を振り返り、受講生と一緒に分かち合い、刺激しあいながら、多くのことに気づかされ、客観的に評価することができたと思う。

印象的な講義の一つでは、「早く仕事を終わらせる人が褒められる傾向にある」と指摘された。検温一つにしても時間のかかる新人さんは先輩に注意されることが多くなる。「何も考えずに要領よく仕事を済ませて行く看護師を育てているのではないか」という指摘であった。スタッフのアセスメント能力の低下には、自分たちの人材育成方法が影響を与えることがあることに気付く必要があり、スタッフがどのようなことを感じ、何を考えたのか？その都度聞いていくことで、今までと違ったことに気付ける関わりができるかもしれないと、はっと気付かされた瞬間であった。

医療経済論の講義では、「10 年後を見据えた自分の病院の経営戦略」のテーマで翌日発表しなければならなかったが、ファーストレベル研修のネットワーク利用や直属の上司に相談することでアドバイスをいただき発表することができた。多くの人に支えられている自分に気づき、周りの人を大切にすることを学んだことで、自分の成長を感じることができた。

看護実践計画書作成では、現状分析の重要性を学んだ。全く進まない計画書に苦悩するばかりであったが、繰り返し現状分析することの大切さを学び、今後このような問題が起きたときに考えるプロセスを教わることができた。1 年後には、実践結果が発表できるように前向きに取り組んでいきたいと考える。

最後に、長期研修に参加させていただいた施設や上司・周囲のスタッフ、支援していただいた講師や支援者の皆様に深く感謝します。また、貴重な時間を一緒に悩み分かち合うことができた仲間にも感謝しつつ、今後もこのネットワークを大切に活かして行きたいと思います。

認定看護師紹介

めざせ！認定看護師

活動内容～やりがい・自身が大切にしている事～

医療法人慈風会　厚地脳神経外科病院
手術室看護認定看護師
西川　進也

私が、手術看護認定看護師を取得しようと思ったきっかけは、担当した患者が肺塞栓で急変し自分の無力さや知識不足を痛感し手術室看護を深めたいと思った事がきっかけでした。東京の教育機関で 6 ケ月の研修を受け、2015 年に手術看護分野の認定資格を取得しました。研修生は全国各地から集まり、私の病院は脳神経外科単科で手術ベッドは３床ですが、総合病院で手術ベッドが１０床以上ある病院や小児科の専門病院など様々な手術室の看護師が集まっていました。手術室環境の違いはありましたが、お互いの悩みを共有し手術看護について議論する事ができ、お互いに刺激のあった６ヶ月間でした。認定取得前は、疾患を中心に考え、治療・処置の手技に重点を置いていたように思います。しかし、認定資格を取得して、術前から術後までの周術期看護としての視点で考えられるようになりました。

当院の特徴としては、治療困難な開頭手術や血管内手術を実施し、緊急手術も全体の約 3 割を占めています。患者・家族はワラにもすがる思いで、手術を受ける事が多く、安心して手術を受けられるように周術期看護の取り組みを実施しています。又、特発性正常圧水頭症の手術症例も年々増えています。患者が高齢であり、麻酔侵襲の少ない局所麻酔で実施することが多く、認知症の症状から時に戸惑うことがありますが、覚醒下でも患者さんの不安を少しでも緩和できるように取り組みを実施しています。

院内活動としては、タイムアウト等の手術室の安全管理の見直しや手術室のＳＳＩ対策の見直しを行いました。又、入院から手術までの日数が短く患者教育が出来ていない事が多かった為、パンフレットを作成し外来看護師に協力をもらい間接的ではありますが患者教育を実施するなど、手術室看護の質向上が図れるように取り組んでいます。院外活動としては、他の病院向けに局所麻酔下での水頭症手術のセミナーを実施しているのですが、その中で手術室での看護について発表・発信するなどの活動も実施してきました。現在の活動はほぼ手術室内での活動が主ですので、今後は周術期看護として外来や病棟での周術期の取り組みを実施していきたいと思っています。

手術看護認定看護師は、診療報酬の加算がないことから「感染管理」「皮膚排泄ケア」などの分野に比べ人数も少なく、又、現在の取得者も大規模病院に所属している人が多数です。教育機関の研修生でも私のような単科の専門病院での認定看護師取得者は少数だったと思います。しかし、手術室看護が好きで、手術看護認定看護師になりたいと思っている人は多いと思います。私も認定看護師を取得する時には悩み、県内の認定看護師に相談にのってもらいました。院外での手術看護認定看護師の活動はあまり出来ていませんが、もし何か相談にのれる事がありましたら、一緒に周術期看護を考えていければよいと思っているので、気軽に声をかけていただけると幸いです。

職場紹介

川内市医師会立市民病院

川内市医師会立市民病院
看護部長
久々湊智予

川内市医師会立市民病院は薩摩川内市の中核病院として、平成５年４月に公益社団法人川内市医師会により設立されました。“地域に選ばれるベストホスピタル”を目指すことをビジョンに地域医療機関との連携を取りながら、24 時間高次救急医療体制を整え安心で信頼できる医療の提供に努めています。中でも、サポートセンターやチーム医療体制を構築し患者さん・ご家族にも医療に参画していただき個々に応じた専門性の高い支援を目指しています。

≪看護部の目指すもの≫

「信頼され感動を分かち合える看護」を目標としていますが、一人ひとりの看護師が一瞬一瞬のケアを大切に、患者さんに寄り添い心が通じ合える経験を通して看護観が醸成されていく事を願っています。そのためには、職員も大切にされていると感じられることが大切であり、教育体制の構築、キャリア支援ワークライフバランスの推進に努めています。

教育の中では、知識・技術・態度と共に、新人看護師のﾛｰﾃｰｼｮﾝ教育・一泊入院体験や SP 研修・ナラティブ研修等を通して感性を磨くことを大事にしています。過去新卒看護師の離職はなくこの教育体制で大切に育成している成果だと自負しています。

患者一泊入院体験

また、キャリアアップ支援も充実しており、現在３名の認定看護管理者、６名の認定看護師が育ち、組織横断的に活動しております。WLB の取り組みでは、正職員短時間制度や院内保育所による 24 時間保育を実施しており、薩摩川内市の子育て支援事業とも連携し 63 名の園児をお預かりしています。働きながら子育てできる環境を整えることで約 60％を占める 25 歳から 35 歳の看護師が働き続けることができています。

看護方式については、平成 25 年より、福井大学病院看護部により開発された PNS を段階的に導入してきました。常に多重課題を抱えながら瞬時に的確な判断力を求められる看護の現場では、ペアによる知識と経験が重なりより安全なケアの提供につながること、お互いの患者対応や観察の視点、看護判断力を直接体験することにより細微な暗黙知の伝承につながることを期待しています。超過勤務の減少にも徐々に効果が見られています。

これからも、川薩地域の医療に貢献して参ります。

近くにお越しの際は是非お越しください！！
病院玄関では、コンシェルジュがお待ちしております。

24 時間保育

Hospital Information

病床数	224 床（内感染病棟 4 床）
敷地面積	16.966m2
延床面積	13,089m2
職員数	444 名（内非常勤 77 名）
保育所	延床面積：261.67m2
	園児数：63 名

地区だより

南薩地区

教育委員会活動

●**第１回教育研修会**　平成 28 年 6 月 18 日（土）　参加者：50 名
会場：南さつま市総合福祉センター　ふれあい加世田　第一会議室
講師：ＮＰＯ法人　こころのサポート代表　神田淳子先生
　　いちき串木野市医師会立脳神経外科センター　山口さゆり先生
内容：「親学～働く女性と子供のコミュニケーション」
　　「ワークライフバランス」

●**第２回教育研修会**　平成 28 年 8 月 6 日（土）　参加者：30 名
会場：県立薩南病院　大会議室
講師：県立薩南病院　がん性疼痛看護認定看護師　坂口智子先生
　　さつま訪問看護ステーション　訪問看護師２名
内容：「がん性疼痛の薬物療法・在宅での疼痛ケア事例報告」

感染予防研修会　　平成28年10月2日(日)

会場：県立薩南病院　大会議室　参加者：40 名
講師：感染管理認定看護師　長崎奈穂先生・二ノ宮理栄先生
内容：「感染防止対策の基礎知識」手指消毒、標準予防対策の実技を行いました。疾患別感染予防対策では、これからの季節に向けてインフルエンザ、ノロウイルスなどの講義があり、皆、真剣に受講していました。

褥瘡予防対策研修会　　平成28年11月26日(土)

会場：県立薩南病院　大会議室　参加者：30 名
講師：皮膚・排泄ケア認定看護師　小濵智美先生・下山喜代美先生
内容：「褥瘡ケアの基本」褥瘡予防基本の講義とポジショニングの実技を行い、アンケート結果からも「実際の看護ケアに役立つ内容で、すぐに実践できるため意義ある研修会だった」という意見を多くいただきました。

地域ケアサービス委員会活動

活動内容：「吹上浜砂の祭典」「山川みなと祭り」「吹上秋祭り」「いちき串木野づくし産業まつり～地かえて祭り～」「大浦まつり」「南さつま市健幸ふれ愛フェスタ」「まるごと伊集院フェスティバル」に会員が参加し、地域住民との交流をとおして健康相談や看護協会のＰＲ活動等を行いました。内服中で血圧が気になる方や最近運動を始めて体調確認をしたい方等多くの方の利用があり、充実した活動となりました。

南薩地区医療安全情報ネットワーク連絡会

活動内容：南薩地区内の１４の病院から担当者が参加し、連絡会を実施しています。鹿児島県看護協会医療安全ネットワークの報告や連絡会での取り組み（今年度は転倒転落について）に関連した各病院からの報告、情報交換、研修情報提供などを行っています。今年度から新しく参加された施設もあり、少しずつネットワークが広がっています。

川薩地区

教育委員会活動

●第１回教育研修会

平成 28 年 6 月 11 日（土）地区総会終了後、三遊亭歌之助さんをお招きして「おまんさも笑いやんせ、笑いが看護を変える！？」をテーマに約２時間にわたり講演していただきました。

参加人数も 111 名と 100 人を超え、医療関係者のみならずその家族も含め多くの方々に参加いただきました。

テレビでおなじみの鹿児島弁そのままで、歴史や日常の何気ない笑いの場面から、母と子の絆などを題材に笑いあり涙ありの本当に楽しく、そしてリフレッシュできる時間を過ごすことができました。笑うことは人の心をほっこりさせ、日々の忙しさから忘れていた何かを蘇らせることができた一時でした。

●第２回教育研修会

7 月 13 日（水）「脳卒中再発予防」として、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師　福永香先生を講師に招き開催しました。参加者は、訪問看護ステーション・リハビリテーション病院等を中心として 63 名の参加がありました。先生から「脳卒中とは？」「脳卒中予防の十か条」「生活指導のポイント」「脳卒中あんしんノート」などについてわかりやすく説明頂き、参加者からはノートのことをはじめて知ったことや入院中の患者の生活指導の大切さを再認識しましたなどの感想を頂きました。

●第３回教育研修会

10 月 22 日（土）「感染管理者研修Ⅰ」感染管理認定看護師　久保田祥子先生と中野智子先生の二人を講師に招き午前・午後と研修していただきました。薩摩川内市内 13 箇所の病院・クリニック・施設から 27 名の参加があり、標準感染予防対策の基本的な手洗やマスク・ガウンの装着方法から飛散汚物の処理方法などの実技や、事例を用いたグループ学習など中身の濃い研修をしていただきました。参加者からは、リアルな場面設定の驚きや医療従事者が正しい感染防止対策を理解しておくことで拡大を防ぐことができると改めて実感できたなど意欲的な意見も頂くことができました。

今年度は、第 2 回の教育研修会開催時間を就業後の夕方開始としたことで、多くの方々に気軽に参加していただいたのではないかと感じています。今後も川薩地域で看護業務に携わっている方々に学習の機会を提供し、看護の質の向上に貢献できればと考えています。

●第４回教育研修会

12 月 13 日（火）

「医療安全と記録」講　師：クオラリハビリテーション病院　医療安全管理者植田みよ子先生

看護記録についての重要性について医療事故の判例を使いながら説明していただきました。あらためて看護の責任について考えさせられました。

新人看護職員合同研修

目　的：「川薩地区における新人看護職員が生き生きと働き続けられ、看護の質向上、新人看護職員のネットワーク構築を図る」
「看護師として「地域（包括ケアシステム）」の中で患者を「看る」ために「倫理的」に考えケアする」

第１回研修　　平成 28 年７月 23 日開催

目　的：「看護者の役割～患者さんを看よう」　講師：集中ケア認定看護師　猿楽大輔
参加者：24 名参加　フィジカルアセスメントの基本を学びました。

第２回研修　平成 28 年９月 24 日開催

目　的：現場の倫理的ジレンマを「個人の悩みにしないために」　講師：板井　孝壱郎先生
参加者：新人対象者 25 名参加、その他 17 名参加
日々の業務の中で倫理的な問題を個人的な問題にしないために、講義とグループワークを行い倫理的な視点について学びました。

今後の計画

第３回２月４日（土）「地域包括ケアにおける看護師の役割」
第４回３月 11 日（土）「看護観を語ろう」

地域ケアサービス

●救護班として参加した事業●

さつま町夏祭り（4 名）、薩摩川内市市民運動会（2 名）、つくし園運動会（2 名）

●まちの保健室●

10 月 15 日（土）「　プラッセだいわ　川内店　」
来場者 109 名。脳年齢、血管年齢の希望者が多く、小学生～高齢者迄多くの方に来ていただきました。今年は小児用のかわいい白衣をレンタルし好評でした。毎年このイベントに参加してくださる方もおられます。

＜今後の計画＞

地域のイベント開催で救護などの要請を受け活動しています。今後、３月「川内川河口マラソン」、５月に「まちの保健室」を予定しています。

川薩地区医療安全ネットワーク

７月、10 月２回開催しました。６～７施設の参加があり、各施設から看護職以外の参加もあり、事例の検討、マニュアルの内容について検討など実施しました。12 月 13 日に教育委員会で講演を実施しました。

看護職連携に関する事業

11 月５日（土）10：00 ～ 15：00　講師：宇都宮宏子先生
テーマ「看護がつなぐ“あなたの思い”」～その人らしさを支えるために～

川薩地区では、昨年「都道府県看護協会地区支部等における看護職連携モデル事業」を実施しました。看護職の連携をさらに推進していくために、この事業を継続したいと考え、研修を企画しました。宇都宮宏子先生の講演の後、事例検討を行いました。MSW、ケアマネージャー等他職種の方にも参加していただき、様々な施設の看護職が集い、事例について考えました。77 名の参加がありました。

姶良・伊佐地区

姶良伊佐地区集会特別講演

田畑美穂子県看護協会長のご臨席のもと、平成 28 年地区集会を開催いたしました。特別講演では認知症看護について、地域と医療の連携を考え看護職の役割等を学ぶ機会となりました。参加者も 165 名と大盛況での地区集会となりました。
講演：「認知症　、対応できてあたりまえの医療機関になろう」～医療と地域が連携する認知症支援～
～看護職の役割と可能性を考えよう～
講師：大牟田市認知症ライフサポート研究会　代表　大谷るみ子　先生

教育委員会活動紹介

看護の質向上と看護師個々のスキルアップのために、28 年度は、地区新人看護職員合同研修 3 回地区教育研修 3 回を計画取り組んでいます。各研修に多くの看護職の参加がありました。

新人看護職員多施設合同研修

第 1 回研修　平成 28 年 7 月 23 日（土）開催
講　師：感染管理認定看護師　皮膚・排泄ケア認定看護師
テーマ：「感染対策の基礎知識」「基本的なスキンケアと褥瘡予防」
研修目標：感染予防と褥瘡予防の基礎知識の理解を深める
参加人数：48 名
研修振り返り用紙より：
※患者も自分も守るためには、しっかりとした感染対策が必要だと思った
※防護具の着脱方法は再確認することができたため病棟でも意識して感染予防に努めたい
※病院ではなかなか勉強会がないのでいい学習ができた
第 2 回　平成 28 年 11 月 12 日（土）開催予定
「救急蘇生：BLS とは」　講師：救急看護認定看護師
第 3 回　平成 29 年 2 月 11 日（土）開催予定
「看取りのケア」～高齢者や在宅での看取り～
講　師：緩和ケア認定看護師

1．平成 28 年 8 月 20 日（土）開催
「感染予防の実際」
講　師：感染管理認定看護師
参加者：22 名
※講義、演習を含めてわかりやすかったという意見が多かった。演習では感染防止防護具の着脱の実際、手指消毒のタイミングについてのグループワークが好評だった。
2．平成 28 年 10 月 29 日（土）開催
「脳卒中の基礎と看護」「摂食嚥下障害看護の基本」
講　師：脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
摂食嚥下障害看護認定看護師
参加者：脳卒中看護　44 名
摂食嚥下障害看護　61 名

講義・実技を取り入れられた参加型研修で受講者も楽しく学ぶ時間となっていた。
教育委員会では地区の看護職の皆様の個々のスキルアップと看護の質向上に向けた研修内容を検討し企画・運営しているところです。

地域ケアサービス委員会紹介

地域住民の方々への健康の保持・増進を図るために、3 ブロックにおいて地域イベント開催時「町の保健室」を実施しております。健康相談や血圧測定・お薬相談等をうけ住民の方々と看護職が触れ合う機会をつくりながら委員会活動に取り組んでいます。
また 12 月 10 日（土）は､地区看護職員の方々の交流と癒しの時間をつくり働く自分へのＷＬＢの視点　から「アロマテラピー体験」を企画しています。地域で働く看護職が元気であるためのリフレッシュになれば幸いです。

医療安全ネットワーク会

11 月 3 日（木）　テーマ　安全文化の醸成　～高めようリスク感性、活用しよう、医療ＫＹＴ～
講師　愛媛大学医学部付属病院　医療安全管理室　　戸田由美子先生
を昨年に引き続きお迎えし実施いたしました。各施設の医療安全担当者、看護職から１２７名の参加者があり、安全な医療看護を提供するための基礎知識を、グループワークを交え楽しい研修となり、現場に今後生かして下さることを希望しています。

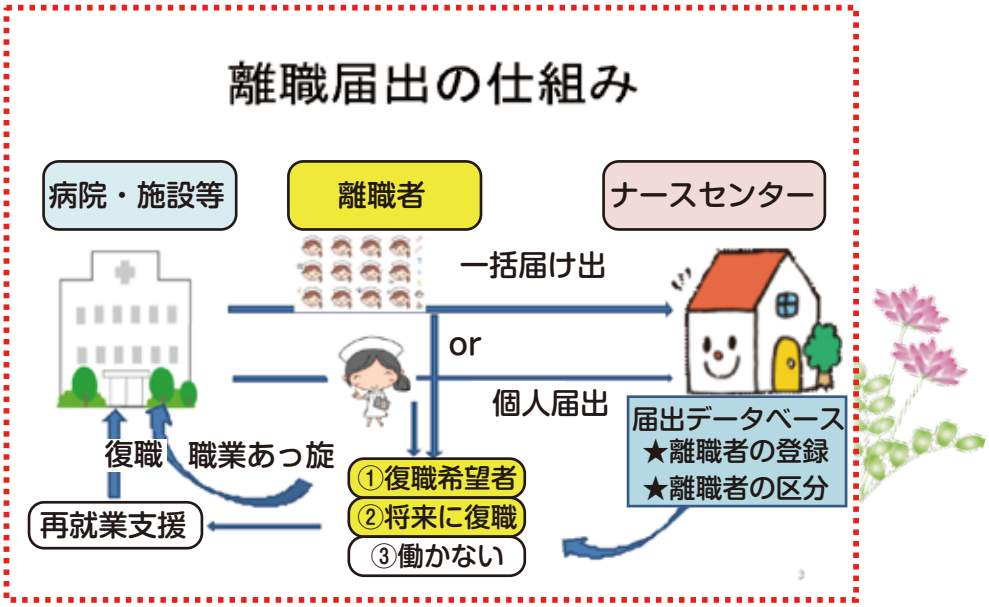
看護職の皆さんへ
ナースセンターへの届出制度と
復職支援をご利用ください！

★届出制は『看護師等の人材確保の促進に関する法律（16 条の 3)』に基づく制度で、保健師･助産師・看護師・准看護師の免許を持ちながら、その仕事に就いていない方に、氏名や連絡先などを都道府県ナースセンターへ届け出ていただく制度です。看護職に従事していない看護職はすべて対象となりますが、特に離職時に登録することを推奨しております。

★届出の窓口は各都道府県のナースセンターになります。
届出サイト“とどけるん”は下方のＱＲコードにて直接コンタクトすることが出来ます。

★届出の情報は県や厚生労働省の統計データーとしても使用されますが、すぐに働きたい看護職と、今後働く環境が整った時点で再就業したい看護職に対して、再就業への支援を行ってくことに役立てられます。

★届出後１週間以内に、ナースセンターから電話･メール・はがき等で連絡をいたします。再就業に関する情報を確認し、希望があれば再就業への支援を致します。本人の意思に反して再就業を薦めることはありませんので、安心してご登録ください。



《届出方法》
＊届出用紙の郵送やサイトを利用しての本人登録を推奨しておりますが、離職される施設からの代理登録でも構いません。届出用紙は次ページ又は県看護協会のホームページから取り出すことができますが、その環境にない時は直接ナースセンターへ御連絡ください。

《連絡先》
公益社団法人鹿児島県看護協会
鹿児島県ナースセンター
〒890-0064　　鹿児島市鴨池新町 21-5
TEL：099-256-8025
Email　kagoshima@nurse-center.net

＊届出サイトへ

本人届出用

届出票

太枠内の項目に記入してください。　　*は記入必須項目です。
選択肢に番号があるものは1つ選択し、〇をつけてください。
（ ）該当するものにチェックをつけてください。

記入年月日（西暦）　　年　　月　　日

「看護師等の人材確保の促進に関する法律」第16条の3第1項に基づき、以下のように届け出ます。

氏名(*)		フリガナ 姓	フリガナ 名	
生年月日(*)（西暦）		年　月　日	性別(*)	1．女性　2．男性
現住所(*)	都道府県	〒		
	住所番地			
電話番号１(*)		－　－	電話番号２	－　－
ＦＡＸ番号		－　－		
メールアドレス１(*)			メールアドレス２	
保健師免許	免許の有無(*)	1．あり 2．なし	登録番号	
			登録年月日	昭和・平成　年　月　日
助産師免許	免許の有無(*)	1．あり 2．なし	登録番号	
			登録年月日	昭和・平成　年　月　日
看護師免許	免許の有無(*)	1．あり 2．なし	登録番号	
			登録年月日	昭和・平成　年　月　日
准看護師免許	免許の有無(*)	1．あり 2．なし	登録番号	
			登録年月日	昭和・平成　年　月　日
			認定都道府県	
就業状況(*)		1．就業していない 3．就業中・就業予定（看護師等） 5．学生	2．就業していないが求職中 4．就業中・就業予定（看護師等以外） 6．その他（　　）	
職歴				
離職年月　（西暦）		年　月		
離職理由		1．転職　（□看護師等として勤務 □看護師等以外の職種で勤務）　2．進学・留学 3．家庭の都合　4．体調不良・療養　5．その他（　　）		
復職の意向		1．すぐに復職したい　2．いずれ復職したい　3．ない　4．未定		
ナースセンターが行う無料職業紹介事業（eナースセンター）への登録を希望しますか		1．希望する　2．希望しない　3．詳しい説明を聞きたい		

※「就業状況」について：離職前に届出票を記入する場合は、想定している離職後の状況（以下参考）をご回答ください。

1. 就業していない→就業する予定はない
2. 就業していないが求職中→就業先が未定のため求職活動をする予定
3. 就業中・就業予定（看護師等）→看護師等として就業することが決まっている
4. 就業中・就業予定（看護師等以外）→看護師等以外で就業することが決まっている（例：一般事務職等）
5. 学生→進学（大学院、留学等）

ナースセンターだより

Vol.119

新年あけましておめでとうございます。

看護職の皆様が自分に合った仕事にめぐりあえ、充実した生活につながっていくよう祈念しております。未熟ではありますが、良い支援ができますよう、相談員一同も学びつつ、頑張ってまいります。今年は**２月から**、相談日を拡大し**土曜日も開所**する予定です。看護職の皆様、今年もナースセンターをご活用ください。

It's new!

ハローワーク連携

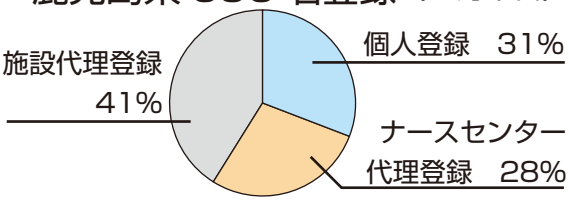
連携事業では、4 月から 10 月までに求人 110 件、求職者 92 人が HW 鹿児島からナースセンターへ紹介となりましたが、そのうち 58 人（63%）の求職者が再就業に至りました。知名度の高いハローワークの力を借りて、ナースセンターの実績を大きく伸ばすことが出来ました。課題は多々ありますが、公的な機関同士が連携することで、施設･求職者の要望に応えることが出来、鹿児島県の医療人材確保に有効な取り組みであると感じています。

ハローワーク出前相談

ハローワークと地域看護職の御協力を得て、10 月末日で 57 名の相談者に対応することが出来ました。潜在看護師はほとんどいないと思われていた大島、熊毛地区でも複数の相談者がいるということは驚きでした。HW 川内、国分は最も相談者が多数ですが他地域でもまんべんなく相談者がおり個別対応を行なっています。相談内容は求職活動から、現職の悩み、進路相談など多岐にわたっていますが、求職相談に関しては、もっと地域施設の求人施設の掘り起こしが必須であると感じられます。さる 11 月に相談員研修を開催し、課題検討と相談対応者としての資質向上にも努めています。

届出制度（とどけるん）

鹿児島県 690 名登録（9 月末日）



届出制度が始まってから 1 年が過ぎました。たくさんの看護職から届出があり、スムーズな滑り出しになりました。保健師・助産師・看護師・准看護師の免許を持ちながら、**現在、そのお仕事に就いていない方**は、今後も届出を宜しくお願いいたします。ナースセンターでは日々セキュリティの強化に努めております。安心して**ご登録画面をクリック**または**ナースセンターまでご連絡**下さい。皆さんの　クリックが未来を作ります。

とどけるんへジャンプ!

【求人・求職登録状況】

	10 月	11 月
求人数	577	579
求職者数	368	370
就業者数	35	36

eナースセンターへジャンプ!

再就業への第１歩！ ～再就業支援セミナー実施報告～

今年度は、鹿児島地区において６月・８月・10月の３回、３日間コースでセミナーを開催しました。総数40名が受講し、２日間の講義と最終日の施設研修を通して、受講生同士が互いに声をかけ合いながら積極的にセミナーに参加しました。

修了後は、平成28年12月現在、未就業者35名中のうち22名の方が再就業し、再び看護職として歩み始めています！

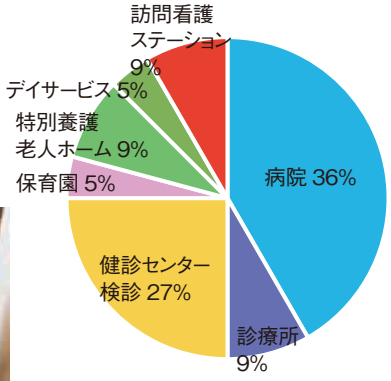
勇気を出して受講し、看護師をあきらめていた心に陽がさしました。

採血実習の様子

以前との違いに驚くばかりで、貴重な研修になりました。不安が軽減され、再就職に対する前向きな気持ちになれました。

ブランクを受講生で語り合い、気持ちも楽になりました。

託児風景



受講生の就業先

【実習担当者からのメッセージ】

★自分の生活にあった施設、やりたい看護を見つけて頑張ってください。
★再就職の際はいろいろな方面から支援したいです。一緒に頑張りましょう。
★大変前向きに研修に臨まれる姿にスタッフも思いを新たにしました。
★思いやる優しさを大切に、看護師という専門職をいつまでも続けていただけるよう応援します。

看護職のための 福祉施設　見学ツアー報告

11月16日（水）、医療法人三州会の施設見学ツアーを開催し、求職活動中の８名が病院や福祉施設などを見学しました。

施設の管理者によるオリエンテーションに続き、直接現場を見て空気を感じることで、福祉分野での看護職としての再就業を考える貴重な機会となりました。ご協力くださいました施設の皆様に心から感謝申し上げます。

☆今回の見学施設☆
大勝病院、介護老人保健施設ひまわり、デイケアひまわり、グループホーム・小規模多機能ホームせせらぎ

鹿児島県ナースセンター
〔看護師等無料職業紹介所　４６-ム-０１０００２〕
★窓口・お電話でのご相談★（ご予約は不要です）
相談日：月～土　午前９：００～１２：００　午後１：００～　４：００
〒890-0064 鹿児島市鴨池新町21-5
TEL：099-256-8025　FAX：099-256-8079
mail：kagoshima@nurse-center.net
ホームページ　http://k-kango.jp/

～訪問看護（入門・養成・管理者）研修報告～

6月3日から11月12日まで、入門研修（4.5日間）15名、養成研修〈23日間〉23名、管理者研修（4日間）26名の方が参加。講義や実習を通して貴重な体験をして各々、新たな課題をみつけて修了されました。

ー入門研修生の声ー

①訪問看護の魅力を学ぶ。
②その人の生活を支える、生き方を支えることなど学ぶ。
③看護に関わる分野で様々な視点があることを学ぶ・・・・・・！
④イメージがわき、やりがいを持って働いていることがわかる。

ー養成研修生の声ー

①基本的なことを理解していない自分の未熟さを知る。訪問看護の価値観が変わった。
②実習で生活の場を見て、様々なひとが、在宅で生活できることを知る。
③受講生間で情報交換ができ、仲間を通して得た学びが大きかった。
④実習では職場がとても明るく、丁寧・親切な対応など、訪問看護師の姿勢を学ぶ。

ー管理者研修生の声ー

①グループワークを通して意見交換や情報共有、自施設の見直しなど学ぶことが多かった。
②経営・運営を見直すことができ、ステーションを発展させる起爆剤となる。
③事例を交えた講義は内容が充実していた。具体的な説明で、解りやすく、よく理解できた。
④知りたいことが多く満足。明日から役立つこと、実践できることもたくさんあった。
⑤自己の管理者としての課題を明確にすることができた。

平成28年度訪問看護養成研修生
〈H28.11.12 開講式〉

技術支援セミナー

採血技術支援セミナーは毎月第4（金）に鹿児島大学病院看護部の協力で行っていますが、今年は希望者が多く、9月以降キャンセル待ち状態が続きました。そこで、鹿児島市立病院の協力を得て、10月は2施設で開催しました。（市立病院看護部の皆様、ありがとうございました。）今年度の開催は2月までです。希望の方は早めにご連絡ください。

平成29年度ふれあい看護体験施設募集

平成２８年度
実施施設数４６施設
体験者数　４７９名

ー看護の心をみんなの心にー

ふれあい看護体験とは、**病院・施設**が地域住民を対象に、見学や簡単な看護体験を通して、「看護の仕事」を知ってもらうイベントです。

来年度のふれあい看護体験実施施設を募集します。

看護の扉を若い世代の子どもたちに開いて下さい。

★詳しくはナースセンターまでお問い合わせ下さい。

申込締切2月22日（水）まで

平成 29 年度公益社団法人鹿児島県看護協会役員の追加公募について

平成 28 年 10 月号で 29 年度の役員の公募を行いましたが、都合により新たに看護師職能理事Ⅰを選出することになりました。つきましては公募を行いますので、立候補される方は次の要領で届け出てください。
〇正会員５名以上の推薦が必要です。（定款施行細則第 14 条）
〇届出書（様式）に必要事項を記入し、提出してください。

届出用紙・届出先・届出期間

・届出用紙は、鹿児島県看護協会ホームページからダウンロードするか、看護協会（庶務係）にお問い合わせください。
・届 出 先：〒890-0064　鹿児島市鴨池新町 21-5　公益社団法人鹿児島県看護協会選挙管理委員長宛
・届出期間：平成 28 年 11 月 1 日～平成 29 年 2 月 20 日
・照会先等：電話　099-256-8081　ホームページ：http://k-kango.jp

※立候補者、推薦委員会からの推薦を受けた者いずれも総会 2 週間前には会員に発表します。

理事会報告

第５回　理事会　日時：平成 28 年 10 月８日（土）13:30 ～ 17:00　　16 名出席（他代理１名）

◆ **協議事項**

1　基本方針に関する事項
　1)　平成 28 年度重点事業及び事業計画の中間報告について
　2)　特定行為係る看護師の研修区分に係る鹿児島大学病院長への要望書について
2　事業推進に関する事項
　1)　特定行為係る看護師の研修受講ニーズ等調査結果（中間）について
3　管理的事項
　1)　鹿児島県看護協会訪問看護ステーションかごしま介護・介護予防訪問看護運営規程の改正について
　2)　地区のＯＡ機器等の配備・会館の維持補修等について
　3)　平成 29 年度改選役員・推薦委員並びに平成 30 年度代議員及び予備代議員の公募について

★ **報告事項**

1　基本方針に関する事項
2　事業推進に関する事項
　1)　教育事業について
　2)　訪問看護人材活用試行事業の実施について
　3)　子どもと子育て世代包括ケア推進のためのモデル事業について
　4)　県総合防災訓練及び日本看護協会合同訓練について
　5)　男性看護師交流会について
　6)　地域医療構想検討委員会について
　7)　医療事故調査制度について
　8)　第 22 回在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク全国大会について
3　管理的事項
　1)　看護協会の旗作成について
　2)　理事会・運営委員会議事録について
4　会員支援関係
　1)　施設代表者会議について
　2)　ハーモニーランド冬季イベントについて

※毎回、日本看護協会理事会報告、職能委員会報告、地区報告、地区長情報交換会報告を口頭で、委員会報告他団体会議報告、県外出張報告を書面で行っています。

会員の訃報

会員の庵悦子様（享年 58 歳）が 12 月 27 日に御逝去されました。
会長名で生花をお送り致しました。
心からご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。
みな様、昨年はどのような年でしたか？大きな出来事として、リオオリンピックがありましたね。史上最多の 41 個のメダル（金 12 個、銀８個、銅 21 個）を獲得し、多くの感動を私たちにあたえてくれました。2020 年は東京オリンピックです。４年後はどのような時代になっていると思いますか？
今年も夢に向かって前進しましょう。

広報委員一同

看護専門職として社会に貢献しよう　会員の増加と福祉の向上のため活動しよう

公益社団法人
鹿児島県看護協会
Kagoshima Nursing Association
鹿児島市鴨池新町21-5
TEL.099-256-8081　FAX.099-256-8079
URL　http://k-kango.jp
E-mail　kakankyo@orange.ocn.ne.jp